

おばけの季節【特別篇】

陽羅 義光

おばけの勉強も、もはやいくところまでいった。

やりつくしたとおもっていると、先日おおきな図書館で、またいろんな本を見つけた。

ブルータスおまえもか。

という感歎、というより感激の声が、おもわず出てしまった。

ううむ、勉強に終わりはないとよくいわれるが、まったくそのとおりじゃ。

いやはやそれにしても、古今東西、古往今来、おばけ好きが多すぎるではないか。

おばけというものは、敬して近寄らずがいいんじゃないかとかんがえているが、自分を棚に上げてと揶揄されると、はは一と平身低頭するばかり。

どうあれ我が『おばけの季節』は、(申請は面倒だからやらないが) 出てくるおばけの数において、ギネス記録にまちがいはなく、今後も記録を抜かされないよう、精進せねばならぬ。

それに、金ちゃんが、またでたまたでたと報告してくるものだから、しらんふりもできない。

懐爺も、復活したいといってくるし、数少ない愛読者だって、もっともっととせがむ(ほんまかいな)ので、まだまだ柿食いまくる、じゃない、書きまくるほかはない。

というわけで、柿食いまくる季節がくるまで、書きまくるつもりである。

どうか、ご理解、ご寛恕、ご忍耐、ご同情のほど、よろしくお願いします。

禿光山人 拝